

意見交換

* 田島 昌明（御坊市企画課長）

みなさん、2日間、本当にご苦労さんでした。今の発表を聞いていまして、大きく分けて2つが大きなポイントだと思います。

1つは、良いところとして昔の歴史のある建物とか、そういうものが残っているということがみなさん共通してますね。そして、もう1点、悪いところとして、ゴミが落ちている、川が汚い、そういうところがみなさん共通してウオッチングしていただいたところだというふうに思います。



おそらく、みなさんが活躍する21世紀は、まちづくりにおいても、環境とマッチしていかなければならない世紀だと思います。今は、生活が便利になりまして、スーパーに買い物に行ってもナイロンのゴミ袋とか、ペットボトルも最近増えてきました。そういうのはやっぱり、ポイ捨てしたり、その辺にほっておいたら、環境に影響あるし、見た目も悪いということをよくわかっていただいたというふうに思います。家の方でも、自分で分別して、ゴミを出していただきたいというふうに思います。

もう一つ、小竹八幡神社に行かれて、神主さんの話を聞きましたが、これからまちづくりというのは、昔の伝統を残して、地域で文化を引き継いでいくというふうなことが大事です。それぞれの地域で昔は、盆踊りとか、いろいろやってましたけども、そういうのがだんだん少なくなってきました。みなさん、そういうのを引き継いでいただいて、地域のコミュニティを高めていっていただきたいというふうに思います。

これから、自分たちの住んでいる地域でもこのまちづくり会議の2日間のことをよく思い出していただいて、地域のリーダーになっていただきたいと思います。

* 田中 昌巳（御坊市教育長）



『見つけたよ まちの歴史の 輝きよ』

みなさんの素晴らしい発表を聞かせていただきました。昨日、今日で、3つの心が育ったと思いました。

1つは、「古きを愛する心」、歴史の勉強もされたと思います。2つ目は、「美しきを愛する心」、そして3つ目は、「まちを愛する心」。

こういうみなさん方の心を、後輩へ引き継ぐ、そしてみなさん方は行動へ移していただく。御坊市の素晴らしいまちづくりに大きな役割を果たしてくれることと思います。

御坊市にある山で、私たちが子供の時分によく登ったところで亀山があります。夏

休み中に1度、亀山のとっぺんに登ってください。亀山城の城跡です。日高別院とも関係あります。そこへ登ると、高さ100m、御坊市全体が眺めることができます。ちゃんと登り口がありますから、友達といっぺん夏休み中に登って、御坊のまちをもう一度、見てください。そういうこともお願いしまして、皆様の発表に拍手を送りたいと思います。有難うございました。

*** 林 拓治 (まちづくり会議「わいわいGOBO」会長)**



昨日と今日、君たちと一緒に行動しまして、心強いです。まちづくりのことで、僕らも一生懸命楽しくやっていますが、まちづくりと言えば、特定の人ができるだけでなく、本当は全体の市民が子供も大人もおばあちゃんもおじいちゃんも本当にそういうことをコツコツとやっていくのがまちづくりなんですね。先ほど課長さんも言われたとおり、君たちが昨日、今日とやったことを、家とか近所とか学校とか近くのところでだんだん広めていかないことには、せっかく素晴らしい学習したのに、あまり意味ないと思うんです。だから、実行すること、動くことですよ。考えるということも大事なんですけども、先考えるよりも、動きながら考えるということが大事だと思います。

最後になりますが、非常に嬉しかったことです。僕が、中学校2年3年のときのこと振り返って、積極性がありますね、本当に、みんな堂々としてる。これはもの凄く宝物ですね。へんな遠慮なんかしないで、みんな生き生きとして、主体性が君たちの中に昨日から見えて、僕自身もの凄く嬉しかったです。これからもひとつ頑張ってください。以上です。どうもありがとうございました。

*** 柳岡 克子 (まちづくり会議「わいわいGOBO」委員)**



みなさん、こんにちは。今日は、みなさんの発表を聞いて、非常によく勉強されたなと感じました。一生懸命、良いところ、悪いところ、そして自分の意見をみんなの前でしっかり発表できるということは、非常にいいことだと思います。この夏休みに、学校の教室、教科書以外で、こういう体験ができたということ、皆さんは誇りに思ってください。そして、皆さん方は、昨日・今日歩いた場所に住んでいる人は、ほんの少しだと思うんですね。自分たちが住んでいる地域でも、目を向けて、どうやって生活したらいいか、そういうことにも目を向けて、これから友達と話

をするときとか、学校で生活するときとか、疑問詞、なんでかなという気持ちの中から、新しい発見とかが生まれてくるように思います。皆さんは、今中学生ということですけども、その後、高校生になったり、また働きに行ったり、大学に行ったりで、もしこのまちを離れることがあっても、このまちをふるさとだと思って、そして、昨日、今日の体験を生かして、素晴らしいまちが自分たちを育ててくれた、僕たち私たちが生きてきたまちなんだと誇りに思えるまちになったら嬉しいと思います。また、このまちで結婚して子供を育てていけたら、このまちの人口も増えていいなと思うんですけども、このまちを離れてしまう人が多いのが今の現状です。昨日、今日素晴らしい勉強が出来たことをいい思い出にして、これからの人生大きくなっていって下さい。どうも有難うございました。

総括 和歌山大学システム工学部教授 濱田 学昭

皆さん、どうもご苦労さんでした。

今日発表してもらったことは、非常によく似ていると思います。君たちがどんなことに関心を持っているかというのがわかります。

1つは、古い物が非常に残っている。400年も300年も古い物がずっと残っていて、店のご主人も、7代目とか4代目とか凄いなというふうに思いますよね。そういうものが、非常に関心がある。それから、小竹八幡神社に代表されるような、まちの中に古い建物や、緑がたくさんあって、まちの中のオアシスみたいな、しかもそこでお祭りをして、四つ太鼓があるという、そういうある意味輝かしい歴史がありますね。

それから、いろいろまちを歩いていると、まちの中で古い物がいろいろあったり、気がつかないものがちょっと見えたりします。例えば、気がつかないものというのは、商店街に街灯があるけれども、商店街ごとに形が違ふとかいうのがよくわかる。どの形が一番好きかということも、投票してみても面白いかもしれない。それから、造り酒屋さんの前に「すぎなま」というのがあってそういうのが吊るしてある。本来、杉の色で緑色をして、青々した緑の玉なんですよね。ところが、最初発見した人が、蜂の巣かなと質問していたけども、一見、みたときに、蜂の巣みたいに見えますけども、なんであんなものを置いているんだろうかと不思議に思うよね。本当は新しく替えたらいいいんだけども、なかなか作るのが難しいのでそのままにしている。それから、お酒の樽を置いたりしている。それから、まちを歩いていると、お味噌を作っているところの臭いとか、古い看板があって凄いなというような、日本語でこれどう読むのかなと君たちが迷ってしまうような書き方をしているとか



あります。そういういいところをもっともっといろいろ発見してみると面白いなと思ってくれるといいと思います。

ところが、多くの人があまり良くないなと、嫌いだなというところに下川という川がありますね。ところが、下川というのは御坊市にとって、小さい川なんですけども、実は大きな意味を持っています。昨日、市役所の人がこういう冊子（「みなちまち絵地図 御坊」）をみなさんにお土産にくれました。この中に「日高別院と寺内町周辺」という説明があります。あなたたちが住んでいる御坊のまち、実は、城下町ではないんです。城下町というのは、例えば、和歌山市、田辺市、大阪市もそうですね、それから姫路城というお城が有名な姫路市。それから長野県の長野市みたいな門前町というお寺の前のできたまち。そういうまちの種類の中に、寺内町というまちがあります。寺内町というまちは、戦国時代に、浄土真宗のお寺さんが、お寺を中心にして、まちが出来ていった。そのときに、あまり強い武力をもってまちを守る力がないので、そこから攻められたときに、簡単に攻められてしまうと困るので、攻められにくいような仕組みとして、小さい濠をまちのまわりにまわしていったんです。濠がまちのまわりにまわっているまちというのが寺内町の特徴で、その濠が実は下川という川なんです。だから、別院と下川という濠は一体になって寺内町の特徴のひとつですね。ところが、実際見ると、下川の川というのは、あまりきれいじゃないですね。ひとつは、さっき誰か言ったように、雨が降った後だから、水が濁っている。これは仕方ないですよ。ところが、生活廃水を下川の中に流している、ゴミが浮いているということもありますよね。このことは、下川自体が決して悪いものじゃなくて、下川をとりまくような人の生活の問題ですね。下川にはりだして建物を建て、トタンの塀が壊れている、そこから錆びが流れていたりしている。だから、まちの中で、君たちがあまり良くないなと思ったものは、まち自体の問題じゃなくて、まちを使う人の使い方の問題にかかわっている問題といえますね。下水道を整備することは最終的に大事ですけども、まずはゴミを捨てないとか生活廃水をできるだけきれいにするとか、それから商店街での駐車場の問題とかありますよね。それから、よくあるのが、まちを歩いていると目につくところにゴミがある。さらに、ゴミと言わなくても使わなくなってしまって、ほったらかしにしているような物がまちを歩いていると目につくことがありますよね。トタンで壊れかけているとかさらに長く住んでいないような建物があって、危険だなと思うようなところがある。これも、使い方の問題ですね。だから、そういうふうな、みんながあまりいいと思わないようなものを、整理して、取り除いていくともっとみんなにとって、好感が持てるようなまちになる可能性がありますよね。そのまちで生活している人の生活の仕方を改めると同時に建物とかまちを良くすることによって、いいまちを作っていく。そういうことをあなた達が中心となって友達にもすぐ話をして、あるいは、高校、大学になったときに、もっと下の学年の人に話をするとかいうことをしてほしいです。

最後に、御坊のまちをこれからどうしてほしいかということで、君たちの中で気になった言葉があります。どんなことかというと、Bグループの人の「若者が残れるようなものを作ってほしい」という話がありましたね。若者が残れるというのは、どんなものを作ったらいいのかということです。君たちが将来、高校、あるいは大学に行って、就職をするようになって、御坊で仕事について生活できるようなそういうものがひとつ若者が残れる話だと思いますよね。どんなことを御坊のまちはしていけば、若者が将来残っていけるようになるか、これを是非、これからも考えてもらって、いい答えが見つかったら市役所に提案する、あるいは自分が大人になったときにそれを実行できるようにしてもらおうようにする、そういうふうに思います。ちょっと、色々とりとめのない話をしましたけれども、以上です。

最後に、3つ質問をさしてもらいたいと思いますので答えてください。

*まちかど発見というのをして、面白かったか？

面白かった	18人
面白くなかった	0人
どちらでもない	1人
その他	4人

*どこに買い物（Tシャツ等）に行くか？

御坊市内	18人
田辺市	0人
和歌山市	0人
大阪市	1人
その他	4人

*将来、どこに住みたいか？

御坊市	10人
和歌山県内	1人
関西大都市（大阪、京都、神戸等）	8人
東京	2人
外国	0人
その他	2人